

映画で学ぶ アサーティブコミュニケーション / 第4回

『ブレイクファスト・クラブ』授業ガイド

相手を決めつけない——「決めつける前に、問いかける。」

教員用・指導資料（対象：高校生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	相手を決めつけない（ステレオタイプ／レッテルを越えて他者を理解する）
教材映画	『ブレイクファスト・クラブ』（原題 The Breakfast Club／1985年・アメリカ／監督・脚本：ジョン・ヒューズ）
対象	高校生以上（内容配慮のため。下記「内容への配慮」参照）
時間	標準90分（45分×2も可）。上映97分。全編視聴・厳選クリップ・あらすじ紹介から選択
中心概念	スクールカースト／レッテル貼りが会話を止める仕組み／自己開示と質問で決めつけがほどける
ねらい	第一印象や「型」で他者を決めつける危うさに気づき、問いかけによって理解を更新する姿勢を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ レイティングと視聴方法

本作はアメリカでR指定です。強い言葉づかい、喫煙・大麻（マリファナ）の描写、家庭内の問題（親からの抑圧の示唆等）、性に関する会話など、大人向けの要素を含みます。日本でのレイティングは公開・配信時期により異なる場合があるため、**使用予定の版のレイティングを必ず事前にご確認ください**。対象は高校生以上を推奨します。

- 全編視聴型：高校生のクラスで、事前に配慮点（喫煙・薬物・言葉づかい）を伝えた上で鑑賞。薬物描写を「肯定」としてでなく「登場人物の状況」として批判的に扱う。
- 厳選クリップ型：自己開示のシーン（各自が家庭の悩みを語る場面）や、レッテルが崩れる場面を選んで提示。
- あらすじ紹介型：本ガイド・解説ノートで内容を伝え、ワーク中心に進める。

📄 著作権について

- 授業での上映（複数クラス・全校など）には、教育機関向けの上映権・配信の権利処理が必要になる場合があります。事前にご確認ください。
- 本教材の文章はすべてオリジナルです。ポスター・俳優写真・場面写真は使用していません。セリフ引用は短く、出典（作品名）を明記してください。

3 「決めつけない」の基礎（予備知識）

レッテル貼り（ステレオタイプ）が会話を止める仕組み

人は情報を整理するため、他者を「型」に当てはめがちです（認知の節約）。しかし一度レッテルを貼ると、①質問しなくなる ②相手の例外・変化が見えなくなる ③相手も心を閉じる、という形で理解が止まります。この映画の5人は、その状態から出発します。

💡 スクールカースト

教室内の目に見えない序列・グループ分けを指す語。本作は「その壁を越えて人はつながれるか」を問う作品として扱えます。

決めつけがほどける2つの鍵：自己開示と質問

心理学では、片方が本音を開くと相手も開きやすくなる「**自己開示の返報性**」が知られています。本作でも、各自が家庭の悩みを打ち明けることで関係が変わります。そして「なぜそう思うの？」という**質問**は、決めつけの反対の行為です（第3回のキャッチボールの発展）。

決めつけないための4つの心がけ（板書用）

① 「型」でなく「その人」を見る

肩書き・グループより目の前の一人へ。

② 決めつける前に質問する

「なぜ？」で理由・背景を知ろうとする。

③ 第一印象を「仮」にする

保留し、更新の余地を残す。

④ 自分も型で見られていると気づく

決めつけられて嫌だった経験を想起。

🎯 この授業の到達目標

「型で決めつける危うさ」を自分の言葉で説明でき、理解を更新する具体的な心がけを1つ以上挙げられる。

4 90分授業の流れ（時間割）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「初対面の人を、見た目や肩書きで判断したことは？」を出し合う。レットルの身近さに気づかせる。
10-22分	レットルの仕組み	決めつけが会話を止める3つの理由を整理。スクールカーストの語にも触れる。
22-33分	4つの心がけ	板書。特に「質問する」「第一印象は仮」を強調。
33-58分	映画を観る（クリップ推奨）	5つの型を確認→自己開示・決めつけが崩れる場面を鑑賞。「何がきっかけで見え方が変わった？」と問う。
58-75分	ワーク記入	見え方が変わった人物と、そのきっかけ。自分の「決めつけ／決めつけられた」経験を書く。
75-85分	共有	数名が発表。個人の経験は無理に言わせず、書ける範囲で。
85-90分	まとめ	板書「決めつける前に、問いかける。」まとめ言葉で締める。

まとめ

人は一言の「型」ではとらえきれません。第一印象を「仮」として持ち、決めつける前に「なぜ？」と問いかける——それが、相手も自分も大切にする関わり方の第一歩です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	The Breakfast Club ／ ブレックファスト・クラブ
製作年・国	1985年・アメリカ。上映時間97分。日本公開：1986年5月17日（2025年に4Kリバイバル上映）。米国レーティング：R
監督・脚本	ジョン・ヒューズ（1980年代の青春映画で知られる）
舞台・設定	アメリカの高校の図書室。土曜日の居残り（休日の反省時間）。「自分とは何者か」という作文が課題

5人の生徒（最初のレッテルと配役）

- ブライアン・ジョンソン（優等生）＝アンソニー・マイケル・ホール
- アンドリュー・クラーク（スポーツ選手）＝エミリオ・エステベス
- ジョン・ベンダー（不良）＝ジャッド・ネルソン
- クレア・スタンディッシュ（お嬢さま）＝モリー・リングウォルド
- アリソン・レイノルズ（変わり者）＝アリー・シーディ

🎬 ティーン・ムービーの原点

「大人には分かってもらえない10代の本音」を正面から描き、以後の青春映画に大きな影響を与えた作品とされています。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、映画ナタリー等）で確認しています。日本のレーティングは版により異なる場合があるため、使用前に必ずご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 5人の関係が変わった、いちばんのきっかけは何だった？

→ 自己開示（本音を語る）と、相手への質問。「型」の下の事情が見えたこと。

Q. なぜ人は、相手を「型」で決めつけてしまうのだろう？

→ 情報整理の近道である一方、理解を止める。便利さと危うさの両面を扱う。

Q. 決めつけられる側は、どんな気持ちになる？

→ 自分の経験と結びつけ、相手の立場を想像させる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 見え方が変わった人物とそのきっかけを、自己開示・質問と結びつけられているか。
- 自分の経験を、他者を傷つけない形で振り返っているか（無理に書かせない配慮）。
- ふりかえりで、更新可能な具体的心がけを挙げられているか。

7 シリーズ全体像

回	映画	学べる力	目安
1	コーダ あいのうた	自分の気持ちを伝える	12歳以上～
2	マイ・インターン	相手の話を聴く	12歳以上～
3	セトウツミ	会話のキャッチボール	12歳以上～
4	ブラックファスト・クラブ	相手を決めつけない	高校生～
5～8	タイタンズを忘れない／42／リンカーン／アイ・フィール・プリティィ！	対立を解決する・説得する・自分を肯定する	中～高

8 参考資料（主な出典）

ブラックファスト・クラブ 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「ブラックファスト・クラブ」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/ブラックファスト・クラブ>

ブラックファスト・クラブ 作品情報（映画ナタリー） <https://natalie.mu/eiga/film/137647>

作品：映画『ブラックファスト・クラブ』（1985年、監督ジョン・ヒューズ）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。